

羽田空港の運用状況や最新の動向を広くお知らせするために、ニュースレターを発行しています。



9月17日羽田空港空の日イベントでお見送りする各航空会社スタッフと空の日キャラクターくまらくん

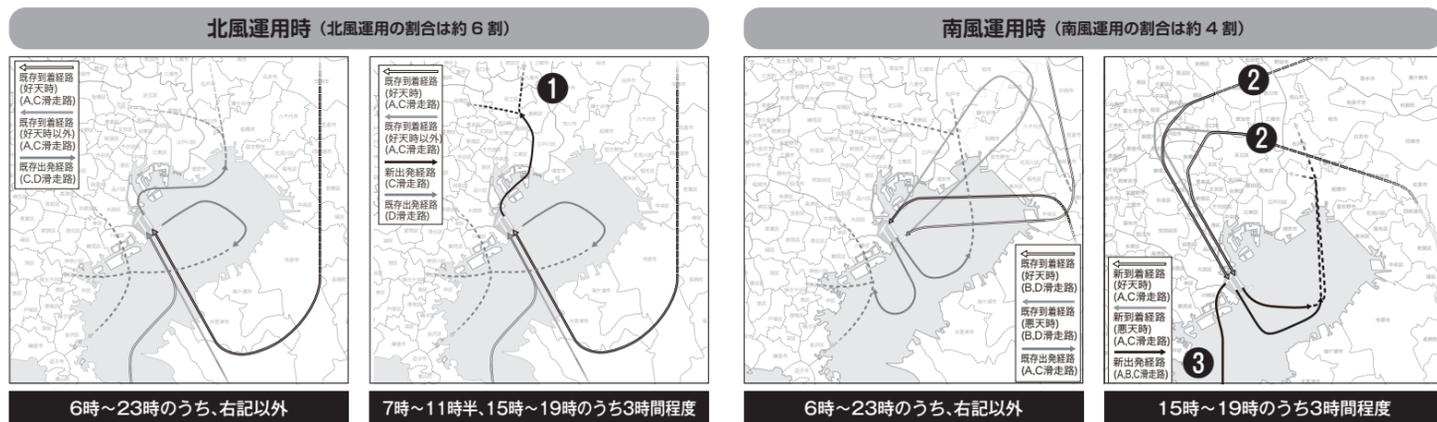
もくじ

- 羽田空港の主な飛行経路、発着回数 1ページ
- 羽田空港の滑走路運用割合 2ページ
- 羽田新飛行経路の航跡 3ページ
- 羽田新飛行経路の騒音測定結果 4～5ページ
- 落下物対策と部品欠落に関する情報 6ページ
- 11月1日より開始しています
- 大型機のB滑走路末端離陸について 7ページ
- 羽田新飛行経路の問い合わせ状況
- トピック 羽田空港国際線にも活気が戻りつつあります 8ページ
- 羽田空港見学ツアー

新飛行経路の運用が開始され2年8カ月

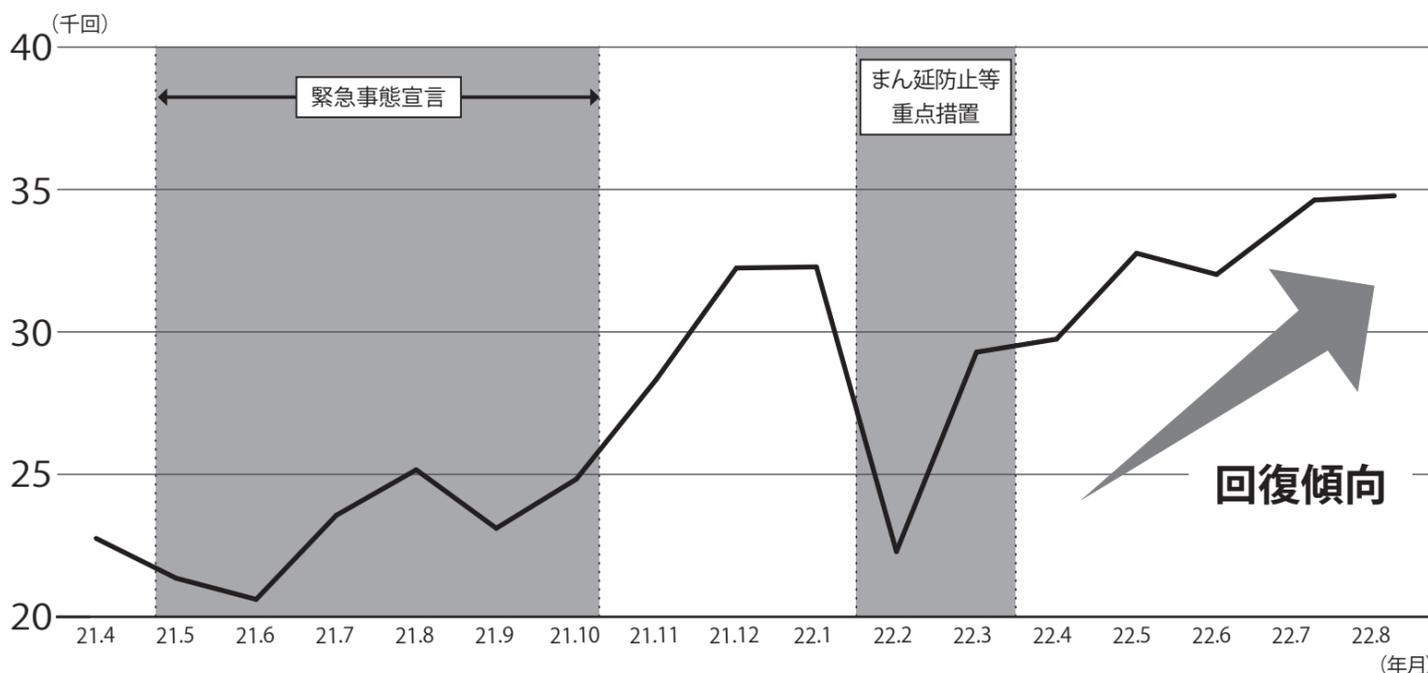
羽田空港の2021年度の運用状況(発着回数、滑走路運用割合、航跡、騒音測定結果、落下物対策、問い合わせ状況)を中心にお知らせします。

■羽田空港の主な飛行経路



羽田空港の飛行経路は北風運用と南風運用に分けられます。北風運用では、①離陸後に荒川を北上する経路(7時～11時半と15時～19時のうち3時間程度)、南風運用では、②埼玉から東京を經由して着陸する経路と③川崎方面へ離陸する経路(15時～19時のうち3時間程度)が、従来の経路に加えて新たに追加されました。

■羽田空港の発着回数(2022年度は速報値)



左図は2021年4月から2022年8月までの羽田空港の発着回数です。今年度は昨年度と比較して発着回数がコロナ禍前[※]の回数に戻ってきていることが確認できます。

昨年度までは新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時的に発着回数は落ち込みましたが、緊急事態宣言解除後は回復傾向にあり、本年10月11日から実施されている水際対策の大幅な緩和や全国旅行支援により今後の需要回復が期待されます。

※約38千回：2019年度月平均



羽田空港の滑走路運用割合をお知らせします

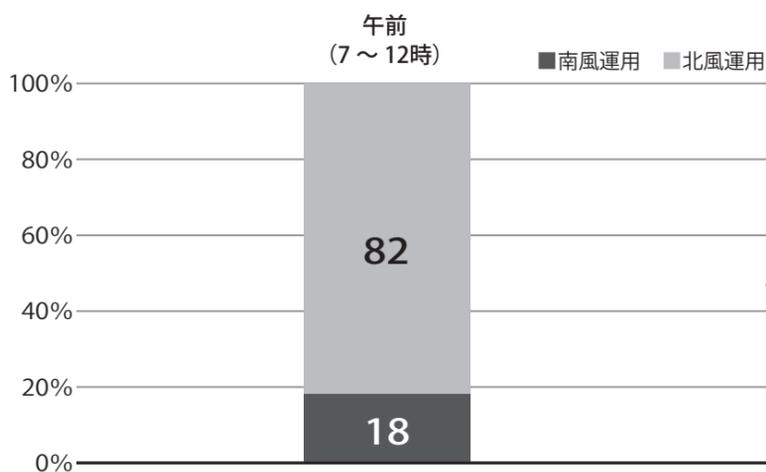
(暖かい時期は南風運用、寒い時期は北風運用が多い傾向)

■北風運用・南風運用の割合(2021年4月1日～2022年3月31日)

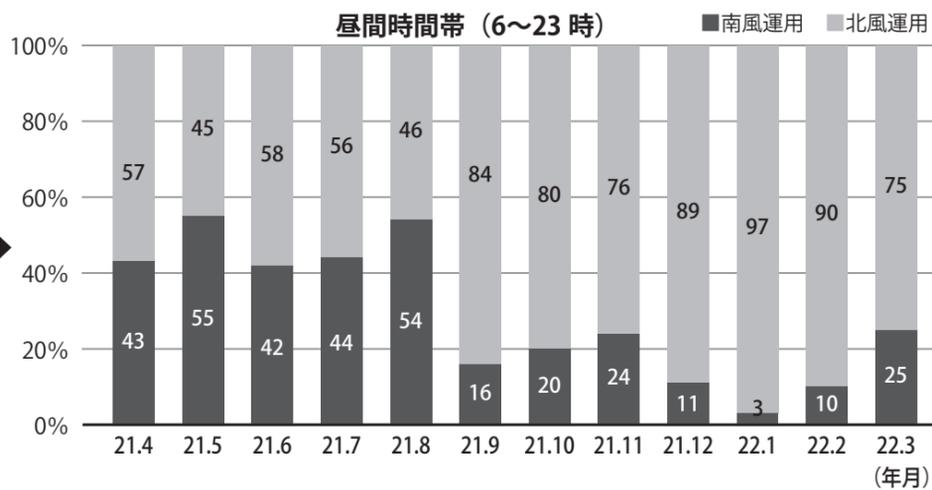
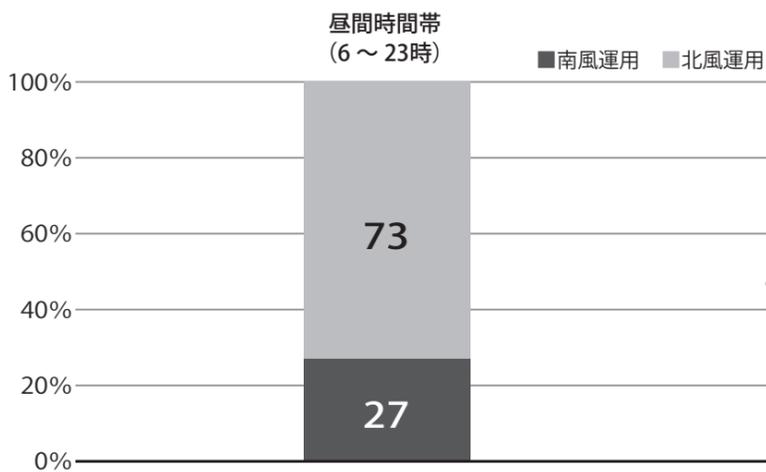
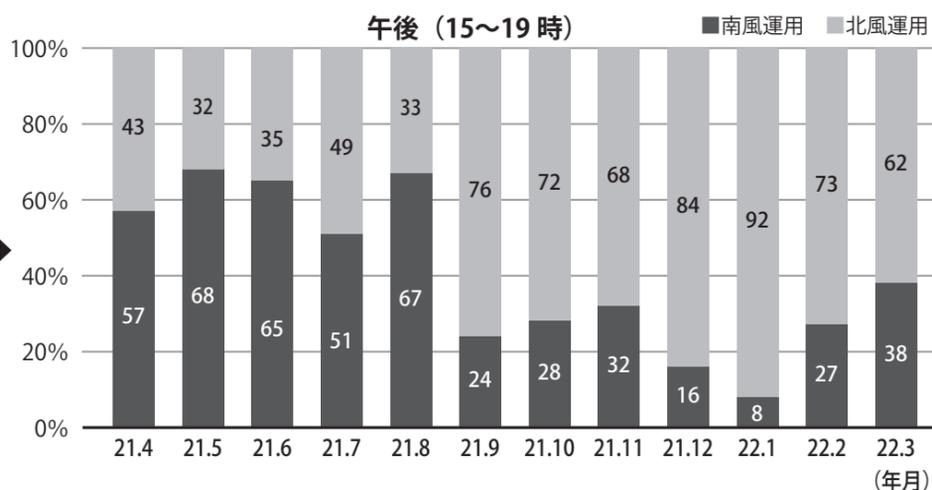
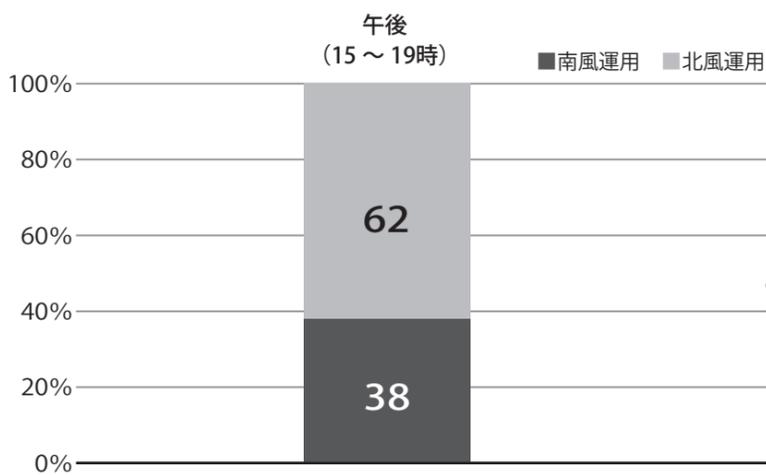
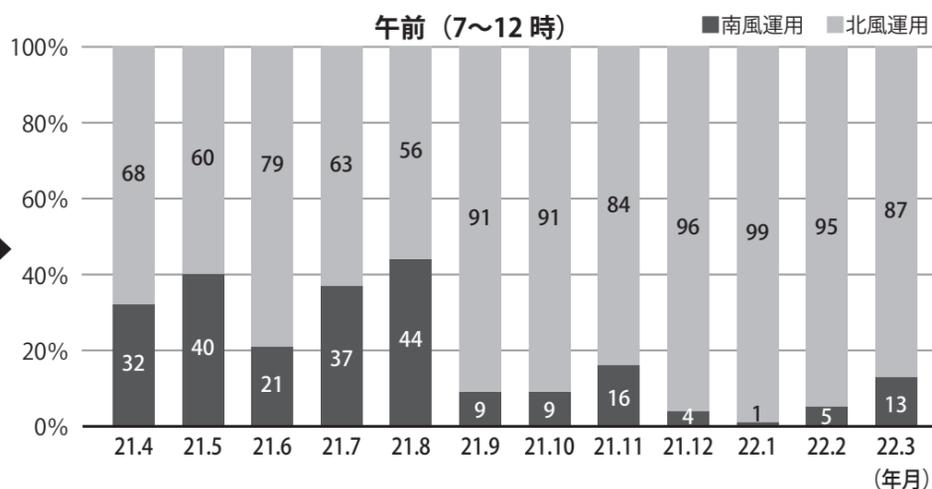
航空機は風に向かって離陸し、風に向かって着陸します。風向き等により「北風運用」「南風運用」があります。

羽田空港では北風・南風の運用割合が、「午前」「午後」「昼間時間帯」別に公表されています。年間の実績は、過去3年間の割合とほぼ同じ割合となりました。月別の割合も、おおむね4月～8月の暖かい時期は南風運用が多く、9月～3月の寒い時期は北風運用が多い傾向の運用割合となりました。

2021年4月1日～2022年3月31日(年間)



2021年4月1日～2022年3月31日(月別)





羽田新飛行経路を飛行した航空機の航跡について お知らせします (全体的に想定経路の範囲内を飛行しています)

2021年4月1日～2022年3月31日の期間において、新飛行経路を飛行した航空機のうち、航空機の位置情報を確認できた航空機を対象として、航跡データを収集しました(位置情報を確認できなかった航空機及び一部のデータが欠測している航空機については、対象から除外しています)。



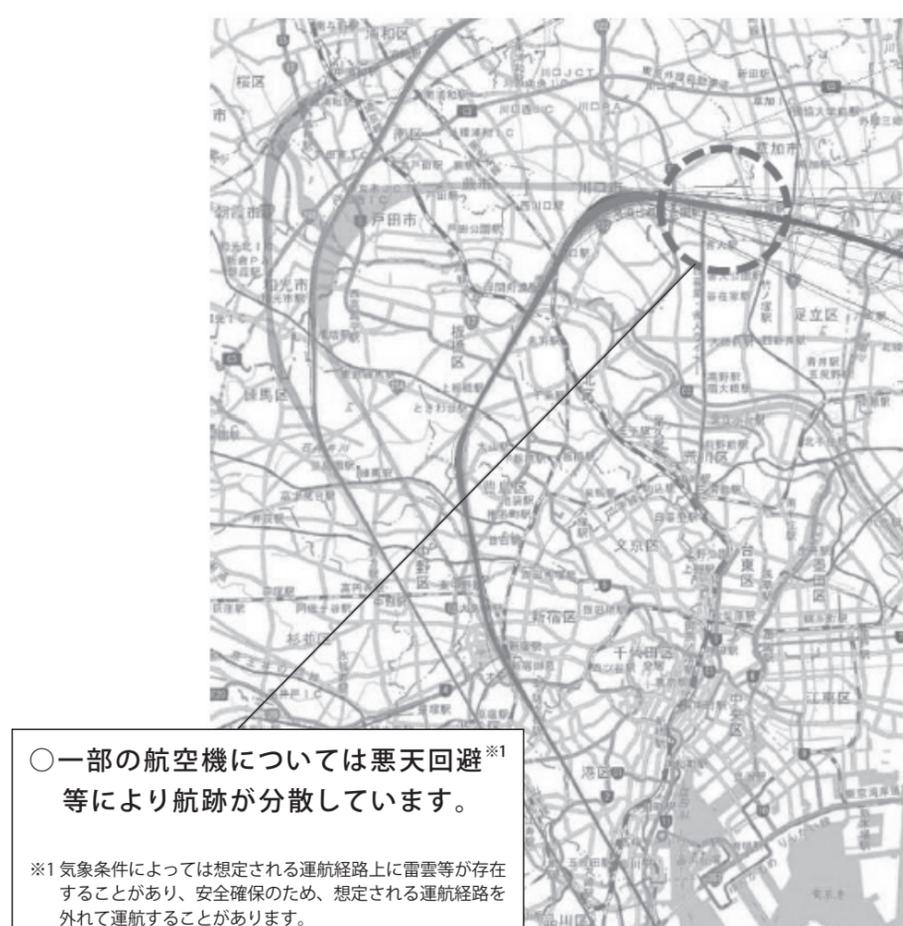
運航経路図に収集した航跡データを重ね合わせ、運航状況について確認しています。

なお、直近1カ月の航跡データについては、羽田空港飛行コースホームページにおいて、お示ししています。→ <https://www.ntrack.mlit.go.jp/>

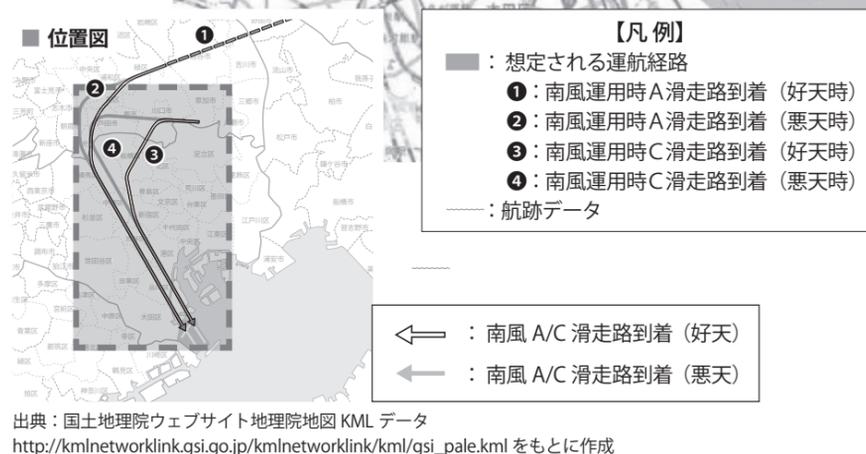
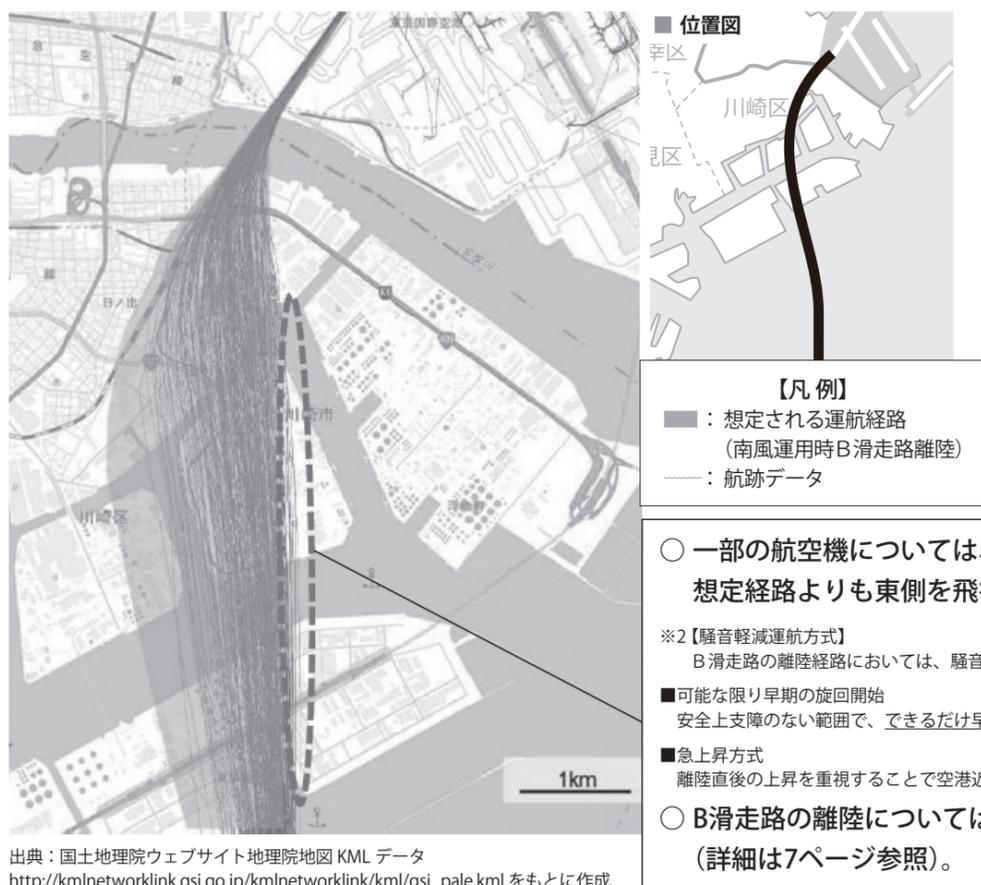
■北風離陸(C滑走路) 2022年春季(3月) の航跡



■南風着陸(A/C滑走路) 2022年春季(3月) の航跡



■南風離陸(B滑走路) 2022年春季(3月) の航跡





羽田新飛行経路に係る騒音測定結果についてお知らせします

2021年4月1日～2022年3月31日の期間、19箇所の騒音測定局で騒音測定を実施しとりまとめを行いました。

騒音軽減対策の効果として、航空機の降下角の引き上げと低騒音機の使用による騒音軽減効果が継続的に確認できています。騒音測定局ごとのLden（航空機騒音評価の指標）について年間で集計したところ、25dB～54dBであり、環境基準値^{※1}である57dBを下回っています。

なお、機体サイズ別の実測値（各航空機が通過したときに発生した騒音の最大値）の平均で比較したところ大型機は61.3dB～82.1dB、中型機は60.5dB～81.2dB、小型機は60.6dB～82.9dBでした^{※2}。

また、結果については新型コロナウイルスの影響により、通常より航空機の便数が少なく、かつ、小型化・軽量化の状況下であることに留意する必要があります。このため、引き続き騒音状況を継続的にモニタリングするとともに、測定結果の分析を行い、騒音対策に取り組んでまいります。

※1 環境基本法に基づく航空機騒音における環境基準として「I：専ら住居の用に供される地域、基準値57dB以下。II：I以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域、基準値62dB以下」と定められています。
 ※2 騒音環境と航空機騒音の程度についての詳細は5ページを参照。

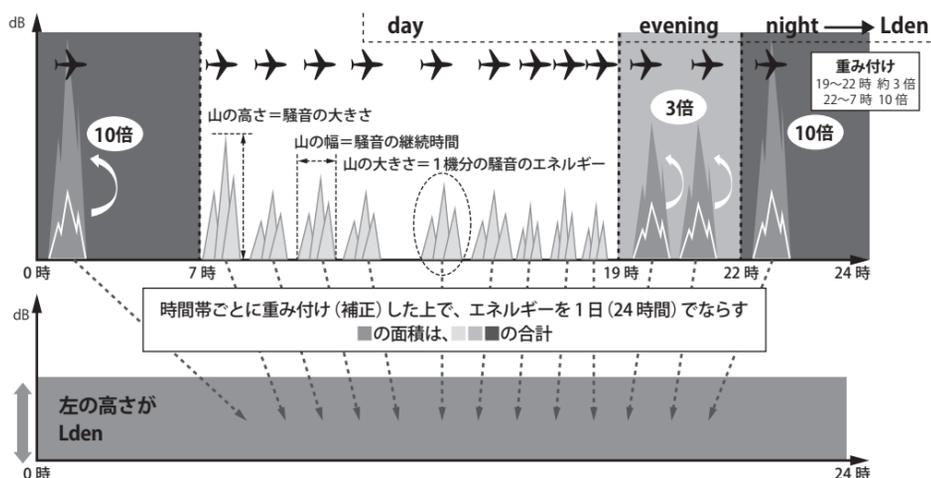


※②大島総合庁舎（江東区）は大規模改修工事のため、2021年12月中旬に東大島文化センター（江東区）に騒音測定局を移設。このため同月においては計20局の結果を集計



■ Lden (エルデン) について

- ① 航空機騒音の評価指標として使われています(下図はイメージ)。
- ② 航空機から発生する騒音の影響は、季節ごとに滑走路の使用割合やダイヤが変わることがあるため、1年間の騒音の総エネルギー量で評価します。
- ③ 時間帯により感じ方が変わるため、よりうるさく感じる時間帯には一定の重み付け(補正)をします。
- ④ 日中(day)、夕方(evening)、夜間(night)で区分しており、騒音レベル(LA)とそれぞれの頭文字からLdenと呼ばれています。



■ 航空機騒音における環境基準

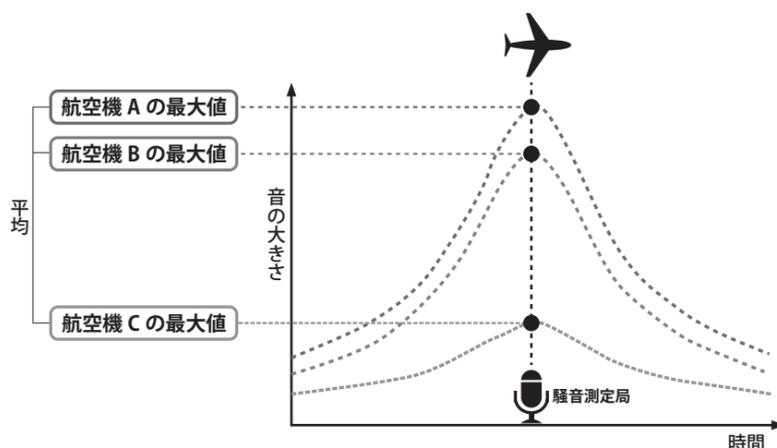
地域の類型	基準値
I	57dB以下
II	62dB以下

I：専ら住居の用に供される地域

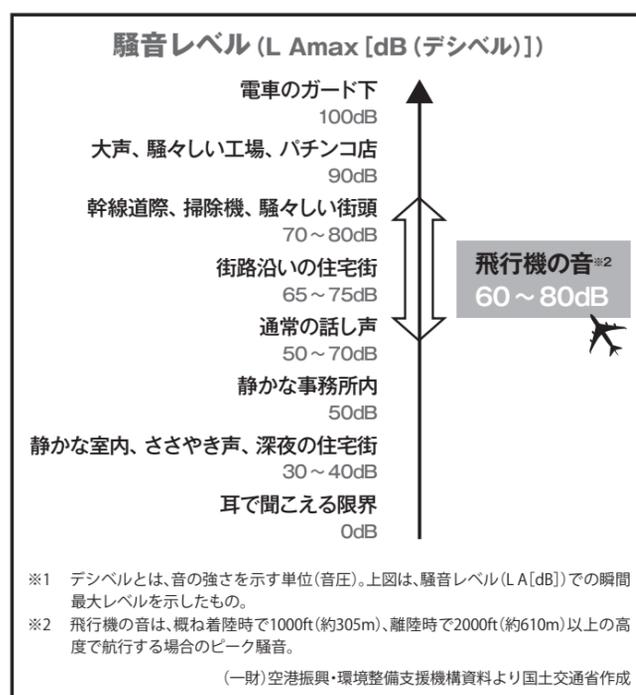
II：I以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域

■ 実測値の平均について

航空機の騒音は、気象条件、機体重量、エンジン出力など様々な要因によりばらつきが生じます。各航空機が通過したときに発生した騒音の最大値を「実測値」(L Amax: エルエーマックス)といい、すべての「実測値」を平均したものが「実測値の平均」です。



■ 騒音環境と航空機騒音の程度について



■ 騒音測定局ごとの Lden 年間値と機体サイズ別の実測値の平均 (2021年4月~2022年3月)

単位: dB

測定局	着陸 / 離陸	Lden (年間値)	実測値の平均		
			大型機	中型機	小型機
① 第五葛西小学校(江戸川区)	C 離陸	45	68.6	64.4	65.3
② 東京都交通局大島総合庁舎(江東区)※	C 離陸	41	69.6	65.3	65.8
③ 江東区東大島文化センター(江東区)※	C 離陸	45	66.3	63.1	63.4
④ 国立医薬品食品衛生研究所(川崎市)	B 離陸	54	82.1	81.2	82.9
⑤ 羽田小学校(大田区)	B 離陸	44	71.1	70.6	72.5
⑥ 八幡木中学校(川口市)	C 着陸	36	61.4	63.3	63.2
⑦ 岸町公民館(さいたま市)	A 着陸	25	61.3	60.5	60.6
⑧ 袋小学校(北区)	C 着陸	38	61.7	63.0	63.2
⑨ 赤塚第二中学校(板橋区)	A/C 着陸	33	61.7	61.4	60.9
⑩ 練馬区職員研修所(練馬区)	A/C 着陸	35	63.9	63.2	61.5
⑪ 千早小学校(豊島区)	C 着陸	39	64.1	64.6	63.8
⑫ 落合第二小学校(新宿区)	C 着陸	40	67.2	67.2	65.3
⑬ 小淀ホーム(中野区)	C 着陸	41	66.9	67.0	65.1
⑭ 広尾中学校(渋谷区)	A/C 着陸	41	67.0	66.7	64.4
⑮ 田道小学校(目黒区)	A 着陸	42	72.7	72.2	70.7
⑯ 高輪台小学校(港区)	C 着陸	46	72.8	73.7	72.1
⑰ 東京都南部下水道事務所品川出張所(品川区)	A 着陸	45	77.2	75.8	74.4
⑱ 東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス(品川区)	A/C 着陸	41	67.9	68.2	67.3
⑲ 東京都下水道局八潮ポンプ所(品川区)	A/C 着陸	39	71.8	69.8	69.1
⑳ 大森第五小学校(大田区)	A 着陸	31	64.1	62.3	61.6

※②大島総合庁舎(江東区)は大規模改修工事のため、2021年12月中旬に東大島文化センター(江東区)に騒音測定局を移設。このため同月においては計20局の結果を集計



航空機の落下物対策と部品欠落に関する情報についてお知らせします

■ 落下物防止対策

新飛行経路において確認された落下物^{*}は0件です。2018年3月にとりまとめた「落下物対策総合パッケージ」に基づき、関係者(国・メーカー・航空会社等)が一丸となって対策を実施しています。

※ 2022年11月末時点。地上(空港内で発見されたものを除く)で、部品または氷塊が発見された場合には「落下物」としています。



落下物防止対策の義務化



落下物の原因分析を強化



駐機中の機体を抜きうちでチェック



航空会社の部品欠落の報告制度を充実



全国の空港事務所等を通じ、落下物に関する情報を収集



落下物の原因者である航空会社への処分等の実施



落下物による被害者に対する補償等を充実

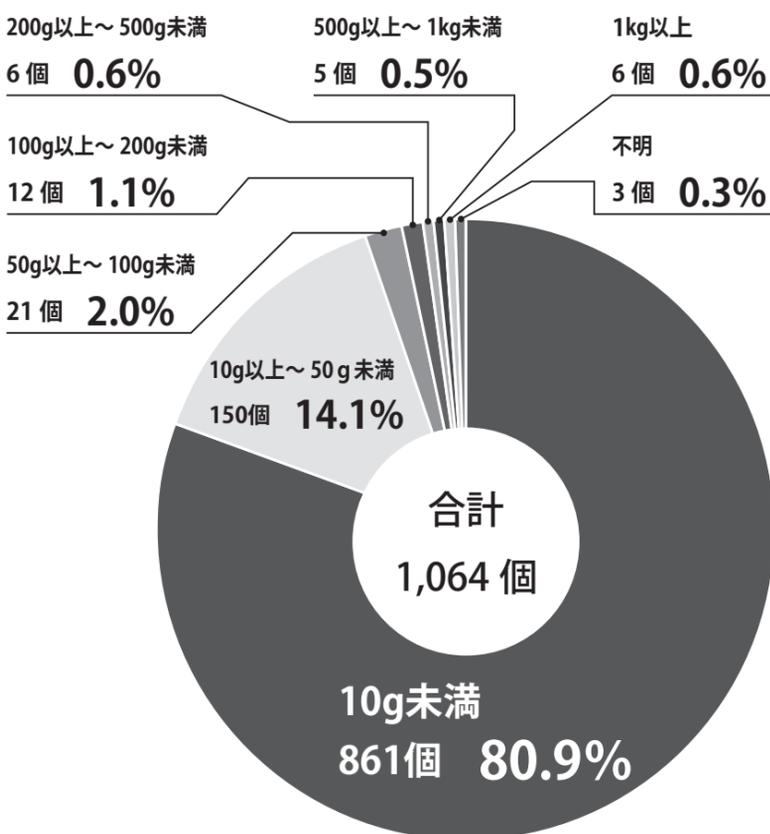
■ 部品欠落報告

部品欠落^{*}の報告制度により、国際線が多く就航する空港において2021年度に報告された欠落部品の総計は1,064個でした。そのほとんどは100g未満で、8割以上は10g未満でした。

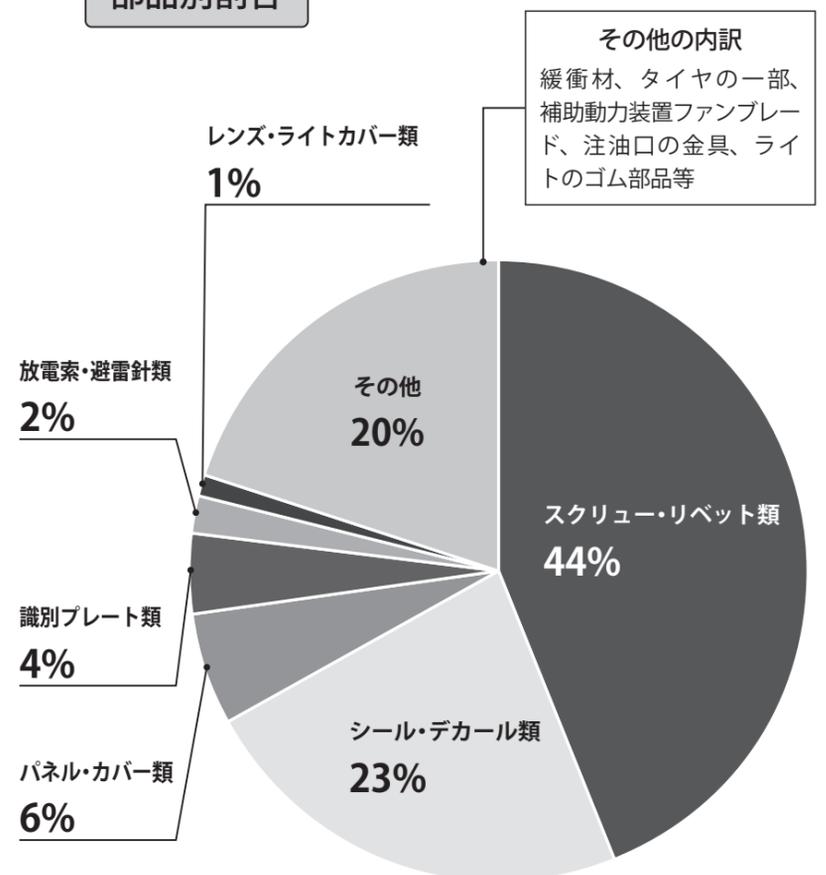
減便が発生していた当該期間においても、駐機中の機体を含めて徹底的な点検等が実施されています。

※ 到着後の点検において航空機の部品がなくなっていることが確認されたもの。

重量別割合



部品別割合



部品欠落の例



リベット
(留め具)



主脚構造部のラベル
(識別プレート類)



シール

- 部品欠落報告の約4割はスクリュー、リベット等の留め具であり、重さは1g～10g程度のものがほとんど
- シール、デカール類の材質はアルミニウム、ゴム等であり、重さは1g～50g程度のものがほとんど
- パネル・カバー類の材質は複合材、アルミニウム等であり、重さは1g～300g程度のものがほとんど
- 識別プレート類の材質はアルミニウム等であり、重さは1g～15g程度のものがほとんど
- 放電索、避雷針類の材質は金属、複合材であり、重さは1g～30g程度
- レンズ、ライトカバー類の材質はガラス、プラスチックであり、重さは2g～120g程度

過去に他空港で発生した落下物事案や部品欠落については、航空会社においてメーカー等と連携して原因究明・対策検討を行い、国はその実施状況を指導・監督するとともに、他の航空会社へも情報共有や指示、必要に応じて落下物防止対策基準の拡充を行っており、再発防止を徹底しています。



11月1日より開始しています 大型機のB滑走路末端離陸について

2022年8月3日に開催された第5回羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会で報告された出発経路の騒音軽減方策について紹介します。

- 羽田空港B滑走路から離陸する航空機は、B滑走路の離陸開始点として2つの誘導路(B13およびB14)を使用しています。



- 羽田空港B滑走路から離陸する大型機^{*}について、原則、滑走路末端の誘導路(B14)を使用し離陸することとしました。
※B777、A330型機

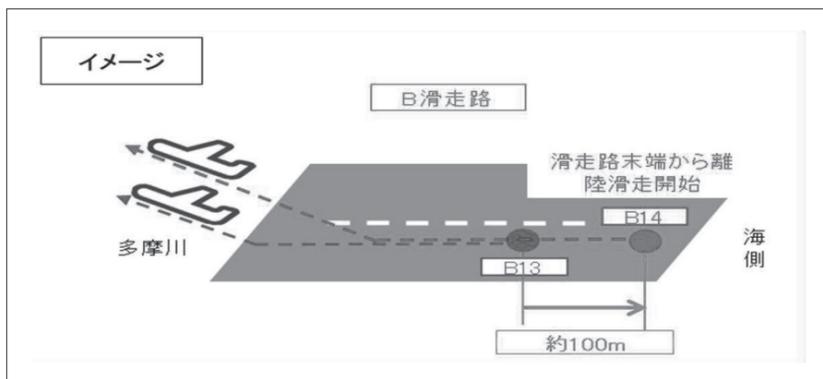
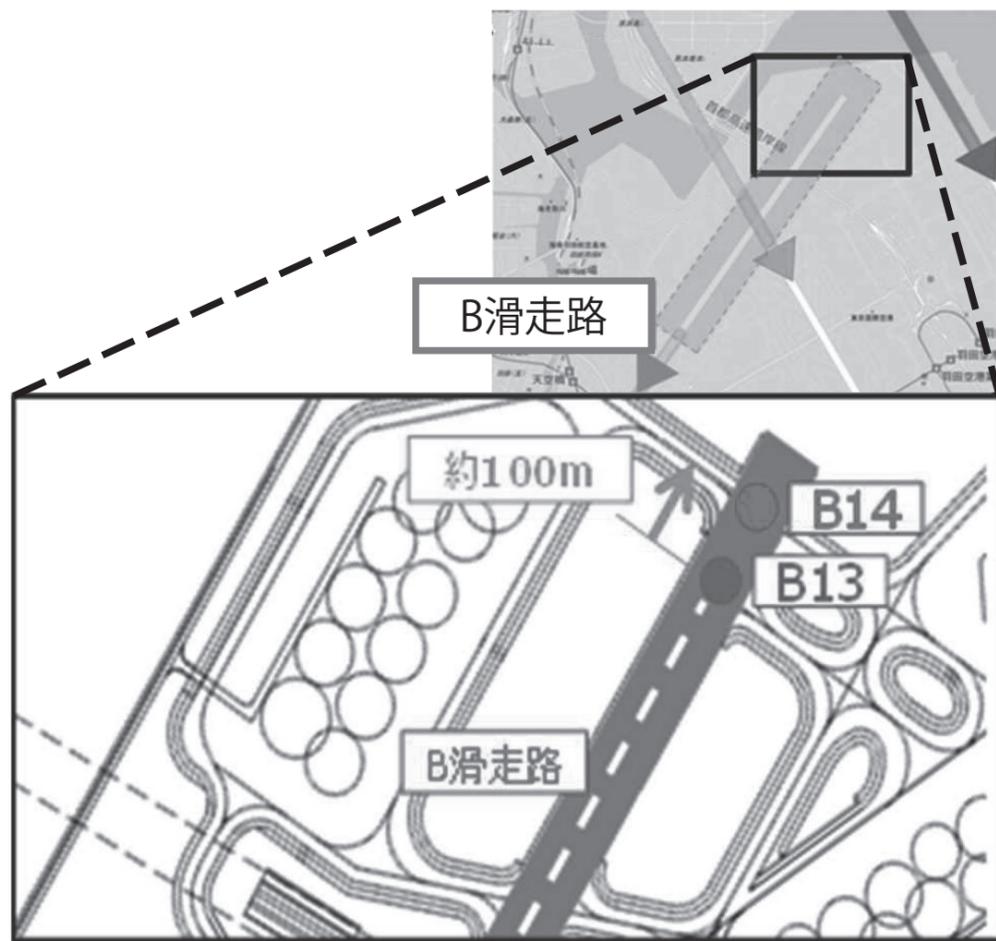


B777 型機の例



A330 型機の例

⇒陸上を通過するときの高度の引き上げや早期の旋回が可能となり、騒音影響の軽減を図ります。



羽田新飛行経路に関する問い合わせ状況 (2021年4月1日～2022年3月31日)

期間	国	コールセンター	合計
4月	129	426	555
5月	109	503	612
6月	108	316	424
7月	66	276	342
8月	90	212	302
9月	44	259	303
10月	50	369	419
11月	103	242	345
12月	84	212	296
1月	33	128	161
2月	45	149	194
3月	90	421	511
合計	951	3,513	4,464

■主な問い合わせ内容

- ・騒音・落下物に対する懸念について
- ・経路や高度、風向き等の判断基準等について
- ・資産価値の下落や騒音による健康被害、防音等にかかる補償について
- ・コロナウイルスの影響により減便となっている状況下での新ルート運用中止の要望について
- ・羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会の検討状況等について
- ・チラシ配布および配架によるご意見受付



トピック

羽田空港国際線にも活気が戻りつつあります



水際対策緩和により外国からの入国者が増えた羽田空港第3ターミナルの様子

政府は10月11日、新型コロナウイルスの水際対策を大幅に緩和しました。約2年半前にほぼ途絶えた外国人旅行者が再び大勢訪れるようになれば、観光関連産業が息を吹き返し、日本経済の底上げにつながると期待されます。

羽田空港第3ターミナルでも10月11日以降外国からの入国者が増え、賑わいをみせており、以前のような活気が戻りつつあります。

トピック

羽田空港見学ツアー
(現在募集中)

羽田空港では、定期的に空港内の見学ツアーを実施しています。普段は立ち入ることができない管制塔、格納庫内および滑走路の付近を見学し、航空機を真近で見ることができます。

2023年2月と3月に空港見学を行います。募集期間は2022年11月4日から2023年1月3日までです。

https://www.cab.mlit.go.jp/tcab/pdf/hanedakukoukenngakukai_leaflet.pdf



航空会社の格納庫を見学する様子

■航空機騒音・氷塊含む落下物等に関するお問い合わせは

Tel 0570-001-596 受付時間：7:00～20:00 [土・日・祝含む]



現在の空港(滑走路)の運用状況や、過去の航跡図、当時の騒音測定局が観測した騒音値をご覧いただけるホームページを公開しています。

[羽田空港飛行コースホームページ](#)

検索

➤引き続き、情報提供を行ってまいります



本号でお知らせした内容をはじめとして、ホームページにて羽田空港に関する最新情報を掲載していますので、ぜひご活用ください。ご意見ご要望もこちらのホームページからメールフォームで直接投稿できます。

[羽田空港のこれから](#)

検索